『要求が貫徹せねば絶對に妥協せぬ』

調停者と鈴木氏の會見

神戸の勞働爭議は四十日の久しきに亙り、勞資雙方の苦痛は固より、一般市民も各種の迷惑を蒙り一日も早く圓滿解決を希望する聲高まりつゝあり、其の結果有吉知事櫻井市長及び瀧川商業會議所會頭等を中心として調停の機運が動いてゐたが、櫻井市長は愈々蹶起調停に當る決心を固め、二日午前十時神戸市木村社會課長が神戸市長の旨を承けて個人の資格で第二互助倶樂部に鈴木文治氏を訪ひ市長に仲裁の意思あることを告げ友愛會の態度を聽き種々懇談する處あつたが鈴木氏は「勞働團は當初の要求より一歩も讓歩する能はざる」旨を答へ物別れとなつた、勞働團の態度が斯くの如く堅固なので圓滿解決までには尚ほ幾多の曲折を經るものと觀測せられる

兩氏は語る

右に就き木村氏は語る

「私は市長との關係を離れ一個人としての調停案を提出したのですが夫に對し鈴木氏は當初の要求から少しも讓らぬ旨を洩しました、私の調停案はまだ發表することは出來ませぬが兎も角相當の機會を見て調停したい希望です」

又鈴木文治氏は語る

「木村氏は個人として來たと言ふたが確かに櫻井市長に調停の意志があつて其旨を受けたものと信ぜられる、尚櫻井市長は二日中に會社の重役と會見して會社側の意向を聽取することになつて居るとのことだが友愛會としては會社が眞に誠意を披瀝したのでないと交渉に應じ乘る、例へば工場委員制度の如きも其の内容を明示し且つ實施の期日を言明しなければ應ずることは出來ない」

警官の不法を告發?

神戸辯護士團の申合せ

今回の爭議に於ける警察官の行動には幾多の非難すべきことあり、現に神戸辯護士團の如きも警官の拔劍問題を問責する旨申合を爲した程で同團は二日協議の結果

一、警官拔劍問題
二、爭議團本部に於ける不法侵入檢擧問題
三、會社の工佐長が平職工の就業を強要せし件

の三問題は甚だしき不法行爲であるとし今井嘉幸博士に依頼し告發することに決し同博士は頻に材料を蒐集してゐる

監察官西下す

警視廳では神戸地方に於ける勞働爭議の實情調査の必要を認め郷津監察官は遠藤警部を從へ二日朝七時東京驛發列車で西下した同監察官は約一週間神戸に滯在し爭議の全部に亙り詳細な觀察研究を遂ぐる筈(東京電話)

兩社の出勤數

二日造船所出勤職工總數は五千八十六人で昨日より三百人減じ、又兵庫分工場では千百七人で是亦昨日より百四十人減少、葺合工場では出勤者七百九十人で二十六人の増加を示し又二日三菱造船所の出勤職工數は三千百二十人、電機四百三十五人內燃機三百九十三人で一日より總計五十二名增して居る

神戸勞働爭議に壓迫命令を發す

[illegible]働ける者は片端より檢擧されん

神戸の勞働爭議は益々波及し既に十一工場に及びたるが神戸地方裁判所の先右檢事正より三司法主任に報告して其指揮を仰ぐ處ありしが司法省にては協議の結果司法大臣の名を以て法に觸るゝ範圍に入れる者は容赦なく檢擧す可しとの命令を發したりと

神戸の暴行警官を告訴

罷業者團は斷じて無條件仲裁に應ぜざる決心を固め飽迄で持久の腰を据ゆ

態度如何で再流血

（神戸電話）＝神戸市川崎三菱兩造船所罷業團は鈴木友愛會長以下新しき指揮者を得て崩れかゝりし結束を立て直し屋內集會の自由を得て

連日連夜數日間

借り切りたる湊川新開地勸業館を始め各所にて大演說會を開き氣勢を揚げ居るが市會議員の賢明議員の各團體は一方に於て頻りに爭議解決策を講じ三菱川崎兩造船所重役側に讓步を求むると同時に市長知事を介して調停の勞を取るべく盡力し居れるが職工側の意氣は

前幹部連の檢擧

以來殆ど一手に收めた友愛會側は鼻息頗る荒く知事が勞資双方共無條件ならば調停すべしと言へるに對し鈴木會長の如きは「今更無條件にて調停に應ずる馬鹿が何處にあるものか」と表面嘲笑つて居る或程度の條件を獲得せねば仲裁に應ぜぬ事は同氏か數次

知事警察部長及

び會社側より仲裁を受けたる人人との會見に於て其口吻を洩らしたるより見るも明かで職工側の意地として今や無條件調停に應ぜざるべく斯くて會社側の態度が尚ほ強硬なるに於ては再び流血の慘事を繰り返し兼ねまじき形勢なり因に友愛會は警官の爲め負傷されたる

入院重傷者二名

郷職者二十名をして警察官を對手取り告訴すべく手續中なり

東京の男女學生間に大流行の理想的の醫化粧料ホーカー液

神戸爭議に十八團體應援

都下勞働十八團體は目下引續き關西勞働者の爲めに活動する事となつて十八團體の幹部は明三日中に同地に赴き四日には神戸市に於て大演說會を開催すると

警視廳から神戸へ爭議を視察に

郷津監察官向ふ一週間の豫定で

將來に備へる爲の參考

神戸に於ける勞働爭議は益惡化し何時終熄を告げるか全く豫り難き形勢にあるを以て警視廳でも勞働運動取締上實地調査の必要ありと認め郷津監察官をして同地の今日迄の爭議の經過

資本家と勞働者

の立場等運動の全般に亙つて詳細に就て調査研究をなさしめる事となり同氏は今二日午後八時三十分東京驛發列車にて[illegible]警部を隨へて神戸へ急行する事となつた右に就き郷津監察官は語る

「勞働爭議の實地調査と云ふより、見學と云つた方が好いまあ今回の勞働に就ては出來るだけ

多方面に亙つて

細密な調査がして見たいと思つてゐる、豫定は一週間だが出來るだけの調査と研究がして見たいと思つてゐる」云々

理想的の八千代生命